

令和6年度開講科目 講義シラバス

**理学療法学科
夜間コース
2年**

学校法人 巨樹の会

小倉リハビリテーション学院

令和6年度 年間予定
理学療法学科(夜間コース)

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
前期	入学式 4月4日(木)	始業 4月8日(月)	始業 4月8日(月)	始業 4月8日(月)	
	面談 4月1日(月) ~ 随時		面談 4月1日(月) ~ 随時		
	講義 4月8日(月) ~ 7月19日(金)		講義 4月8日(月) ~ 7月19日(金)		
	補講・定期試験期間 7月22日(月) ~ 8月9日(金) 8月13日(火)~15日(木)予備日		補講・定期試験期間 7月22日(月) ~ 8月9日(金) 8月13日(火)~15日(木)予備日		
	夏季休業 8月16日(金) ~ 8月31日(土)		夏季休業 8月16日(金) ~ 8月31日(土)		
	再試験(対象者のみ) 8月22日(木) ~ 8月30日(金)		再試験(対象者のみ) 8月22日(木) ~ 8月30日(金)		
					講義 4月8日(月) ~ 4月19日(金)
後期					臨床実習Ⅲ 4月22日(月) ~ 6月14日(金)
					臨床実習Ⅳ 6月24日(月) ~ 8月30日(金)
					合同就職説明会 6月22日(土)
	講義 9月2日(月) ~ 12月13日(金)		講義 9月2日(月) ~ 12月13日(金)		学内就職説明会 9月5日(木)
	補講・定期試験期間 12月16日(月) ~ 12月27日(金) 1月6日(月) ~ 1月10日(金) 1月14日(火)~16日(木)予備日		補講・定期試験期間 12月16日(月) ~ 12月27日(金) 1月6日(月) ~ 1月10日(金) 1月14日(火)~16日(木)予備日		講義および国家試験対策 9月2日(月) ~ 2月14日(金)
	冬季休業 12月28日(土) ~ 1月3日(金)		冬季休業 12月28日(土) ~ 1月3日(金)		第60回 国家試験 2月16日(日)予定
	再試験期間(対象者のみ) 1月22日(木) ~ 1月31日(金)		再試験期間(対象者のみ) 1月22日(木) ~ 1月31日(金)		
臨床実習Ⅰ 2月3日(月)~ 3月1日(土)		臨床実習Ⅱ 2月3日(月) ~ 3月15日(土)		卒業証書授与式 3月4日(月)	
春季休業 3月10日(月) ~ 3月31日(月)		春季休業 3月18日(火) ~ 3月31日(月)			

学校法人 巨樹の会		小倉リハビリテーション学院		理学療法学科		夜間コース		カリキュラム										
分野	教育内容	指導要領	授業科目	1年		2年		3年		4年		時間数	単位数					
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解	人文科学	心理学			30						30	2					
			統計学						30				30	2				
		自然科学	情報処理							30				30	2			
			物理学	30										30	2			
		コミュニケーション学	基礎教養		30									30	2			
			対人関係演習Ⅰ	30										30	2			
		対人関係演習Ⅱ		30								30	2					
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解剖学Ⅰ	30									30	2				
			解剖学Ⅱ		30									30	2			
		生理学	生理学Ⅰ	30										30	2			
			生理学Ⅱ		30									30	2			
		運動学	運動学Ⅰ	60										60	4			
			運動学Ⅱ		30									30	2			
			運動学演習Ⅰ	30										30	2			
			運動学演習Ⅱ		30									30	2			
		人間発達学	人間発達学			30								30	2			
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーションの基礎	リハビリテーション基礎医学Ⅰ	30										30	2		
				リハビリテーション基礎医学Ⅱ		30										30	2	
			臨床医学総論	医学概論		30										30	2	
	病理学概論					30									30	2		
	臨床医学各論		整形外科学			30									30	2		
			内科学			30									30	2		
		神経内科学			30									30	2			
		臨床心理学					30							30	2			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論・医学	リハビリテーションと理学療法Ⅰ	30										30	2			
			リハビリテーションと理学療法Ⅱ	30											30	2		
	専門分野	基礎理学療法学	理学療法学	基礎理学療法学Ⅰ		30									30	1		
				基礎理学療法学Ⅱ				30								30	1	
				生活機能演習						30						30	1	
			臨床運動学	臨床運動学演習Ⅰ					30							30	2	
				臨床運動学演習Ⅱ						30						30	2	
理学療法管理学				理学療法管理							30				30	2		
理学療法評価学		理学療法評価学	基礎評価学演習Ⅰ		60										60	2		
			基礎評価学演習Ⅱ			60										60	2	
			基礎評価学演習Ⅲ				60									60	2	
			臨床評価学演習Ⅰ		30											30	1	
			臨床評価学演習Ⅱ			30										30	1	
			運動療法学	運動療法学演習				60								60	2	
		物理療法学	物理療法学					30								30	1	
			日常生活活動学	日常生活活動学演習Ⅰ				30								30	1	
				日常生活活動学演習Ⅱ					30								30	1
			義肢装具学	義肢学						30							30	1
				装具学							30						30	1
			疾患別理学療法学	中枢神経疾患の理学療法学	中枢神経疾患の理学療法学Ⅰ					60							60	2
中枢神経疾患の理学療法学Ⅱ									60							60	2	
運動器疾患の理学療法学Ⅰ									60							60	2	
運動器疾患の理学療法学Ⅱ										60						60	2	
内部障害系疾患の理学療法学Ⅰ										60						60	2	
内部障害系疾患の理学療法学Ⅱ										60					60	2		
小児疾患の理学療法学		小児疾患の理学療法学						30								30	1	
		理学療法学技術演習Ⅰ								60						60	2	
		理学療法学技術演習Ⅱ									60					60	2	
		理学療法学総合学習Ⅰ										60				60	2	
		理学療法学総合学習Ⅱ									60				60	2		
理学療法治療学		理学療法総合学習	理学療法総合学習Ⅲ								60				60	2		
			理学療法総合学習Ⅳ									60				60	2	
地域理学療法学		地域理学療法学	地域理学療法学					30						30	2			
臨床実習		臨床実習	臨床実習Ⅰ		45										45	1		
			臨床実習Ⅱ							45					45	1		
			臨床実習Ⅲ									360			360	8		
			臨床実習Ⅳ									450			450	10		
基礎分野				60	60	30	0	0	60	0	0	0	210	14				
専門基礎分野				240	180	150	60	0	0	0	0	0	630	42				
専門分野				0	120	120	330	300	300	30	180	1380	51					
実習				0	45	0	0	0	45	810	0	900	20					
前期・後期小計				300	405	300	390	300	405	840	180							
前後期合計				705		690		1245		3300		3120	127					

* 基礎分野：講義15～30時間1単位
* 専門基礎分野：講義・演習5～30時間1単位
実習30～45時間1単位
* 専門分野：同上
* 臨床実習：40～45時間1単位

I . 基礎分野

講義科目	心理学		
担当講師	都能 美智代		授業時間数 30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年前期	単位数 2
教育目標	①対人援助職に必要な人間の行動科学の基本原則を学び、対象者理解の基礎を身につける。 ②リハビリテーション治療過程に関わる学習理論、動機づけを理解する。		
No	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	医療行動科学の基本概念① 医療の行動科学とは何か	①心理学とは何かを理解する。 ②医療と心理学の関係を理解する。 ③心理学の歴史と現代の医療行動科学の位置づけを理解する。	
2	医療行動科学の基本概念② 心のモデル	①フロイトの心的力動理論の概要を理解する。 ②人間の適応の概要を理解する。 ③人間情報処理モデルとしての認知科学・神経科学の概要を理解する。	
3	行動科学の基本法則① 知覚の様式	①知覚と感覚を理解する。 ②視覚と聴覚の概要を理解する。 ③痛みについて理解する。	
4	行動科学の基本法則② 記憶の構造とはたらき	①記憶の区分と働きを理解する。 ②記憶の分類を理解する。 ③バベツ回路と記憶障害を理解する。	
5	行動科学の基本法則③ 学習の理論	①古典的条件づけの役割を理解する。 ②道具的条件づけを理解する。 ③認知学習について理解する。	
6	行動科学の基本法則④ 感情	①情動とは何かを理解する。 ②感情の機能を理解する。 ③記憶と感情の関係を理解する。	
7	行動科学の基本法則⑤ 動機	①動機づけの役割、誘因と動因を理解する。 ②動機づけの種類を理解する。 ③欲求と葛藤、不満行動を理解する。	
8	行動科学の基本法則⑥ 社会心理学	①社会的認知を理解する。 ②自己と他者を理解する。 ③社会化と社会的影響を理解する。	
9	行動科学の基本法則⑦ ストレスのメカニズム	①ストレスとは何かを理解する。 ②ストレスによる生理学的変化を理解する。 ③ストレスコーピングと自律訓練法を知る。	
10	行動科学的介入の基礎知識① パーソナリティ	①パーソナリティの形成を理解する。 ②パーソナリティ理論を知る。 ③パーソナリティ測定を知る。	
11	行動科学的介入の基礎知識② 知性	①知能の定義を理解する。 ②知能検査方法を知る。 ③知能の発達と障害を知る。	
12	行動科学的介入の基礎知識③ 心の発達と危機	①発達の概要を理解する。 ②エリクソンのライフサイクル論を理解する。	
13	行動科学的介入の基礎知識④ 心の発達と危機	①ピアジェの発達段階を理解する。 ②アタッチメントの形成を理解する。 ③中年期以降の心理的变化を理解する。	
14	行動科学的介入の基礎知識⑤ 心理学的介入	①精神分析法(内容と人名) ②行動療法(行動療法の理論) ③カウンセリング(来談者中心療法)	
15	まとめ	理解度に合わせて補足を行う。	
教科書	書籍名	著者	出版社
	医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー	山田富美雄	北大路書房
参考 図書等	心理学【カレッジ版】	山本豊	医学書院
授業 方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方 法	定期試験
履修上 の注意	心理学は国家試験に出題される重要な科目であり、理学療法士、作業療法士にとって対象者理解にとって必要不可欠な科目であり、記憶学習ではなく人の行動の成り立ちに興味を持ち学習して下さい。		

II. 專門基礎分野

講義科目	人間発達学					授業時間数	30
担当講師	川上 留理子				授業時間数	30	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	総合病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2	
教育目標	①身体、運動、認知、心理、社会性など各領域の正常な発達過程を理解する。 ②人間を生物学的存在としてでなく社会的存在としてとらえ、各段階の発達課題を理解する。 ③人間発達学を通じて幅広く豊かな人間観を身につける。						
No	講義計画		行動目標(学習目標)				
1	人間発達総論		①発達の原則、臨界期、発達段階を説明できる。 ②エリクソン、ピアジェ、フロイトの発達理論を理解する。 ③発達の検査の目的、方法、種類を理解する。				
2	姿勢反射・反応		①原始反射、姿勢反射の意義を理解する。 ②反射中枢と出現・消失時期を理解する。 ③原始反射、姿勢反射の検査方法を理解する。				
3	胎児期の発達		①受精に関する過程を理解する。 ②胎児の発達過程を理解する。 ③胎児期に出現する反射の確認を行う。				
4	新生児期の発達		①新生児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害(早産・低出生体重児)を理解する。				
5	乳幼児期の発達		①乳幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害(脳性麻痺)の概要を理解する。				
6	幼児期の発達		①幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害(自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害)の概要を理解する。				
7	上肢機能の発達		①上肢機能の発達を理解する。 ②目と手の協調性の発達を理解する。				
8	ADLの発達1(食事・排泄・更衣)		①食事の発達を理解する。 ②排泄の発達を理解する。 ③更衣の発達を理解する。				
9	ADLの発達2(遊び)		①遊びの発達を理解する。				
10	感覚・知覚・認知の発達		①感覚・知覚・認知の発達を理解する。				
11	言語・社会性の発達		①言語の発達を理解する。 ②社会性の発達を理解する。				
12	学童期の発達		①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。 ③人間発達における性差について理解する。				
13	青年期の発達		①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。 ③人間発達における性差について理解する。				
14	成人・老年期の発達		①青年期の特徴を理解する。 ②我が国の高齢化の特徴及び老年期の発達学的特徴を理解する。 ③成人期・老年期の発達課題を理解する。 ④人間発達における性差について理解する。				
15	各期の発達のまとめ		胎児期から老年期まで生涯の発達についてまとめ、理解度に応じて補足を行う				
教科書	書籍名		著者		出版社		
	イラストでわかる人間発達学		上杉 雅之 監修		医歯薬出版株式会社		
参考 図書等	リハビリテーションのための人間発達学		大城 昌平 編		メディカルプレス		
	生涯人間発達論		服部「祥子		医学書院		
	標準理学療法学・作業療法学 人間発達学		岩崎 清隆		医学書院		
授業 方法	講義および演習方式で授業を行う 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験			
履修上の 注意	人間の発達を学ぶことは、広くヒトを捉える上で重要な基礎知識となる。また小児科学、子どもを対象とする理学療法・作業療法の評価学・治療学の基						

講義科目	病理学概論		
担当講師	張 皿		授業時間数 30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年前期	単位数 2
教育目標	①疾患の原因および形態的变化などの基本概念や用語、基本的視点と関連技術に関する知識を捉える ②医療・医学における病理学の役割、意味、位置づけを理解する		
No	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	病理学概説、病理学の検査法、病因論	①病理学の意義と検査法について説明できる ②疾患の原因について説明できる	
2	先天異常・奇形	①先天異常・奇形の定義、分類、病態について説明できる	
3	退行性病変、代謝疾患	①退行性病変・代謝障害の種類、病態について説明できる	
4	進行性病変	①進行性病変の種類、病態について説明できる	
5	循環障害	①循環障害の病因、病態について説明できる	
6	炎症	①炎症の定義、病態について説明できる	
7	免疫、感染症	①免疫が関係する疾患の成因、病態について説明できる ②感染の種類について説明できる	
8	腫瘍	①腫瘍の定義、分類、病態について説明できる	
9	循環器系の疾患	①心奇形、虚血性心疾患、動脈硬化症について説明できる	
10	血液、造血器系の疾患	①貧血、白血病について説明できる	
11	呼吸器系の疾患	①肺炎、肺の腫瘍、塵肺症について説明できる	
12	消化器系の疾患	①胃の腫瘍、腸の炎症性疾患、大腸の腫瘍について説明できる ②肝臓、胆石症、膵臓について説明できる	
13	腎、泌尿器、生殖器系の疾患	①腎の腫瘍、泌尿器系の炎症疾患、前立腺の腫瘍、子宮の腫瘍について説明できる	
14	神経系の疾患	①神経系の循環障害、変性疾患、脱髄疾患、腫瘍について説明できる	
15	運動器系の疾患	①萎縮性筋疾患、骨腫瘍について説明できる	
教科書	書籍名		著者
	はじめの一步のイラスト病理学		深山 正久 編
参考 図書等	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学		大橋 健一
授業 方法	講義形式。適宜画像を供覧。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	国家試験にも出題される科目であると共に、疾病の成り立ちを理解するうえで重要な科目である。また、細胞の病理学的変化は PT・OT評価に通じる基礎知識となるので、しっかりと理解するようにして下さい。		

講義科目	整形外科学			授業時間数	30
担当講師	新行橋病院 医師 坪田 和英 林 輝真			単位数	2
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年前期		単位数	2
教育目標	リハビリテーション対象疾患について疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。				
講義計画(講義内容を含む)					
1	整形外科基礎知識	①正常な骨の発生と成長及び基本構造を理解する。 ②骨の修復と再生、骨の加齢変化について理解する。 ③関節・骨格筋・神経系の基本構造を理解する。			
2	整形外科的治療法	①診療の基本と検査の概要を知る。 ②保存療法の種類・目的・方法の概要を知る。 ③代表的な基本的手術法を知る。			
3	外傷総論	①捻挫と脱臼の違いを理解する。 ②骨折の分類と治癒過程を理解する。 ③骨折の症状・合併症及び治療の原則を理解する。			
4	骨折と脱臼①上肢 (小児骨折含む)	①受傷機転、好発部位、年齢、転位、合併症、治療を理解する。			
5	骨折と脱臼②下肢 (小児骨折含む)	①受傷機転、好発部位、年齢、転位、合併症、治療を理解する。			
6	末梢神経損傷	①末梢神経損傷の分類及び特徴、病態像を理解する。 ②末梢神経損傷の診断と治療を理解する。			
7	靭帯損傷	①代表的な靭帯損傷の症状・診断・治療を理解する。			
8	脊椎疾患	①頸椎疾患の検査、症状、年齢、治療を理解する。 ②胸腰椎疾患の検査、症状、年齢、治療を理解する。			
9	脊髄損傷	①脊髄損傷の概念を理解する。 ②脊髄損傷の受傷機転、病態を理解する。			
10	脊髄損傷	①脊髄損傷の症状を理解する。 ②脊髄損傷の治療を理解する。			
11	炎症性疾患	①軟部組織・骨・関節の感染症の代表的な疾患を理解する。 ②関節リウマチの症状・診断及び治療の概要を理解する。 ③関節リウマチ類似疾患を理解する。			
12	慢性関節疾患(退行性・代謝性)	①変形性関節症の病態・症状及び治療を理解する。 ②痛風の病態・症状・及び治療を理解する。			
13	代謝性骨疾患	①骨粗鬆症の病態・症状及び治療を理解する。 ②くる病・骨軟化症の病態及び治療を理解する。			
14	骨・軟部組織腫瘍 熱傷・切断	①骨腫瘍・軟部組織腫瘍の発生及び治療を理解する。 ②熱傷の深度と範囲による重症度、関節拘縮や変形を理解する。 ③切断の概念・評価・断端管理、合併症を理解する。			
15	先天性骨関節疾患 循環障害と壊死性疾患	①代表的な先天性骨関節疾患の病態を理解する。 ②四肢の循環障害、壊死性疾患の病態及び症状を理解する。			
教科書	書籍名		著者	出版社	
	病気が見える Vol.11 運動器・整形外科		医学情報科学研究所	メディックメディア	
参考 図書等	標準整形外科		内田 淳正	医学書院	
	標準理学療法学・作業療法学 整形外科学			医学書院	
授業 方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験	
履修上の 注意	理学療法、作業療法臨床において対象となることの多い疾病であり、専門領域につながる重要な科目である。暗記だけでなく、疾病の成り立ちを理解するよう復習をして下さい。				

講義科目	内科学			
担当講師	新行橋病院 医師 伊織 信一		授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年前期	単位数	2
教育目標	内科疾患について疫学及び予後、病因と症状(疾病の成り立ち)、検査および代表的な治療を理解する。			
No	講義計画	行動目標(学習目標)		
1	内科学とは 内科的診断と治療の実際	①内科学の概念について理解する。 ②内科的診断における診察法とその臨床的意義について理解する。 ③臨床検査について、その内容、実施方法、意義を理解する。		
2	症候学	①主要な症候の概念とそのメカニズムを理解する。 ②主要な症候を生じる病態とその関連疾患を学習する。		
3	循環器疾患 ①	①虚血性心疾患、高血圧の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。 ②虚血性心疾患、高血圧をもつ患者の理学療法・作業療法を実施する際の留意点を知る。		
4	循環器疾患 ②	①正常な12誘導心電図を理解する。 ②主な不整脈について波形の特徴、循環動態を理解する。		
5	循環器疾患 ③	①主要な循環器疾患の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。 ②循環器疾患をもつ患者の理学療法・作業療法を実施する際の留意点を学修する。		
6	呼吸器疾患 ①	①呼吸機能を測定する検査法と基準値について理解する。 ②呼吸リハビリテーションについて知る。		
7	呼吸器疾患 ②	①主要な呼吸器疾患の概念、病態生理、症状、検査、治療および予後について理解する。 ②呼吸リハビリテーションについて知る。		
8	消化管疾患	①主要な消化管疾患の症候、病態生理について理解する。 ②主な消化管疾患の概念、診断法、症状、治療法について知る。		
9	肝胆膵疾患	①主要な肝臓、胆道系、膵臓、腹膜疾患の症候、病態生理、症状について理解する。 ②主な肝臓、胆道系、膵臓、腹膜疾患の検査法、治療法を知る。		
10	血液・造血器疾患	①貧血、リンパ節腫脹、出血性病変などの主な症状について知る。 ②主要な血液疾患の概念、病態、診断法、予後について理解する。		
11	代謝性疾患 ①	①糖代謝、蛋白質代謝、脂質代謝のつながりを知る。 ②糖尿病、痛風の病態と臨床的特徴を理解する。		
12	代謝性疾患 ②	①主要な代謝性疾患の病態と臨床的特徴を理解する。 ②ビタミン欠乏症・過剰症の臨床的特徴を理解する。		
13	内分泌疾患	①ホルモンの作用機序を理解する。 ②主要な内分泌疾患の概念、病態、治療法を学修する。		
14	腎・泌尿器疾患 アレルギー疾患	①腎機能が障害されて起こる症状を理解する。 ②主要な腎疾患、泌尿器疾患の概念、病態、症状、検査法、治療法について理解する。 ③アレルギー反応のI～V型の生じ方と関連疾患について理解する。		
15	膠原病と類縁疾患、免疫不全症	①主要な膠原病と類縁疾患の症状、診断、治療について理解する。 ②免疫不全による疾患について理解する。		
教科書	書籍名		著者	出版社
	標準理学療法学・作業療法学 内科学		大成 浄志	医学書院
参考図書等	病気がみえる vol.1 消化器 第5版		医療情報科学研究所 (編集)	メディックメディア
	病気がみえる vol.2 循環器 第3版		医療情報科学研究所 (編集)	メディックメディア
	病気がみえる vol.4 呼吸器 第2版		医療情報科学研究所 (編集)	メディックメディア
授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験	
履修上の注意	近年、内科領域のリハビリテーションの重要性が高まっており専門分野の基礎となる重要な科目です。国家試験に出題されることの多い疾患を中心に疾病の成り立ちを理解するよう心がけて下さい。			

講義科目	神経内科学		
担当講師	新小文字病院 医師 川上 留理子	授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年前期	単位数 2
教育目標	各疾患の疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。		
No	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	神経内科学オリエンテーション	①神経内科学を学ぶ目的を理解する。 ②中枢神経と末梢神経の違いを理解する。	
2	神経学的検査と臨床検査①	①脳の構造と機能の概要を理解する。 ②画像診断の基礎知識と診断基準を理解する。	
3	神経学的検査と臨床検査②	①脳脊髄液の検査と診断基準を理解する。 ②脳神経検査, 身体機能検査の診断基準を理解する。	
4	神経症候学(1)	①頭蓋内圧亢進症状を理解する。 ②上位運動麻痺と下位運動麻痺の違いを理解する。 ③筋萎縮を理解する。	
5	神経症候学(2)	①錐体外路の機能を理解する。 ②錐体外路徴候を理解する。 ③錐体路徴候と錐体外路徴候の違いを理解する。	
6	神経症候学(3)	①運動失調の原因と病態を理解する。 ②運動麻痺と運動失調の違いを理解する。 ③感覚障害の分布と特徴を理解する。	
7	脳血管障害(1)	①脳血管障害の分類及び危険因子, 病態を理解する。 ②脳血管障害の診断と治療の概要を理解する。	
8	脳血管障害(2)	①脳出血の発生機序, 診断と治療及び予後, 疫学等を理解する。 ②くも膜下出血の発生機序, 診断と治療及び予後, 疫学等を理解する。 ③脳梗塞の発生機序, 診断と治療及び予後, 疫学等を理解する。	
9	脳血管障害(3)	①水頭症の発生機序, 診断と治療を理解する。 ②慢性硬膜下血腫の発生機序, 診断と治療を理解する。 ③脳外傷の発生機序, 分類, 診断と治療を理解する。	
10	髄膜炎・脳腫瘍	①髄膜炎の病態及び症状を理解する。 ②脳腫瘍の部位と好発年齢及び予後の関係を理解する。 ③脳腫瘍の診断と治療を理解する。	
11	認知症	①認知症を伴う代表的な疾患を理解する。 ②脳血管性認知症とアルツハイマー病の違いを理解する。 ③代表的な認知症疾患の病態及び症状の特徴を理解する。	
12	変性疾患(1)	①パーキンソン病の病態及び症状を理解する。 ②パーキンソン症候群の病態及び症状を理解する。 ③パーキンソン病とパーキンソン症候群の違いを理解する。	
13	変性疾患(2)	①脊髄小脳変性症の病態及び症状を理解する。 ②多系統萎縮症の病態及び症状を理解する。	
14	脱髄疾患	①脱髄疾患の病態を理解する。 ②多発性硬化症の症状を理解する。 ③ギランバレー症候群の症状を理解する。	
15	神経筋疾患	①筋萎縮性側索硬化症の病態と症状を理解する。(神経原性) ②筋ジストロフィー症(典型例)の病態と症状を理解する。(筋原性) ③重症筋無力症の病態と症状を理解する。(神経筋接合部)	
教科書	書籍名	著者	出版社
	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 病気が見える7(脳・神経)	川平 和美 編 医療情報科学研究所	医学書院 Medic Media
参考 図書等			
授業 方法	教科書にそって講義を行う。適宜画像を提示。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	解剖生理学に関わらせながら授業の復習を行い確実に理解を深めて下さい。神経内科に関連する基礎・専門は国家試験出題率が高い領域です。		

講義科目	臨床心理学		
担当講師	浦前 貴大		授業時間数 30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年後期	単位数 2
教育目標	人間行動の基礎理論を学び、正常及び異常心理の評価と行動療法等の心理療法を理解する。		
No	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	臨床心理学とは	①臨床心理学の定義を理解する。 ②臨床心理学の基本構造を理解する。 ③臨床心理学の成り立ちを理解する。	
2	臨床心理学の実践活動	①臨床心理学の実践活動の過程を理解する。 ②実践活動の3技能を理解する。 ③学派の成立と現在の代表的理論モデルの中心仮説を理解する。	
3	臨床心理学の基礎理論	①ナラティブアプローチの概要を理解する。 ②エンパワメントの概要を理解する。 ③ストレスモデルの概要を理解する。	
4	心を理解する:心理検査法①	①アセスメントの概要を理解する。 ②質問紙法と投射法の特徴と代表的な検査法を理解する。 ③認知検査の概念と代表的検査法を理解する。	
5	心を理解する:心理検査法②	①行動分析の基本的理論を理解する。 ②機能分析の方法を理解する。 ③異常心理の基準を理解する。	
6	ライフサイクルと心理問題①	①エリクソンの生涯発達理論を理解する。	
7	ライフサイクルと心理問題②	①乳幼児期から児童期の心理問題を理解する。 ②思春期の心理問題を理解する。	
8	ライフサイクルと心理問題③	①青年期の心理問題を理解する。 ②中年期の心理問題を理解する。 ③老年期の心理問題を理解する。	
9	ライフサイクルと心理問題④	①乳幼児期から老年期まで一連の心理問題を理解する。	
10	心理療法の理論モデル① 精神分析	①フロイトの「心の力学」を理解する。 ②防衛機制を理解する。 ③ユングの無意識に対する考え方を理解する。	
11	心理療法の理論モデル② 行動療法と認知行動療法	①行動療法と学習理論の考え方を理解する。 ②行動療法の技法を理解する。 ③行動療法から現在の認知行動療法への系譜を理解する。	
12	心理療法の理論モデル③ 森田療法,内観療法,箱庭療法,夢分析	①森田療法の理論と方法を理解する。 ②内観療法、箱庭療法、夢分析の概要を理解する。	
13	心理療法の理論モデル④ 自律訓練法,系統的脱感作法,集団療法	①自律訓練法の理論と効果を理解する。 ②系統的脱感作法の概要を理解する。 ③集団療法の定義とグループ・ダイナミクスを理解する。	
14	心理療法の実際 クライアントの心理反応とセラピストの態度	①心理療法の実際の流れを理解する。 ②反動形成、転移などの心理反応を理解する。 ③セラピストの基本的態度を理解する。	
15	まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	
教科書	書籍名		著者
	面白いほど良くわかる 臨床心理学		下山 晴彦 著
			出版社
参考 図書等	よくわかる臨床心理学		下山 晴彦 著
	公認心理師必携テキスト		福島 哲夫
	リハビリテーションのための臨床心理学		牧瀬 英幹
授業 方法	教科書に沿って講義および演習を行う 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	国家試験でも重要な科目であると共に、対人援助職にとって重要な知識であるので興味をもって授業に臨んで下さい。		

講義科目	精神医学					授業時間数	30
担当講師	二階堂 晴江				授業時間数	30	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	精神科・高齢者施設にて実務経験あり	単位数	2	
教育目標	各疾患について疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。						
No	講義計画	行動目標(学習目標)					
1	精神医学とは何か	①精神医学の定義及び概念を理解する。 ②精神障害の成因を理解する。 ③精神障害の分類を理解する。					
2	精神障害の症状	①精神機能の種類と精神症状を理解する。 ②精神症状の特徴を理解する。					
3	精神科面接法と評価	①精神障害の診断や評価の基本概念を理解する。 ②検査法や評価尺度を学ぶ。 ③PT・OTにとって面接や評価における重要な視点を学ぶ					
4	脳器質性精神障害	①器質性精神障害の概念を理解する。 ②代表的な認知症の症状、生活障害を理解する。 ③特徴的な脳器質性・症候性精神障害を学ぶ。					
5	アルコール関連精神障害	①依存症による精神障害の概念を理解する。 ②アルコール依存症の特性を理解する。 ③アルコール依存症の後遺障害、生活障害を学ぶ。					
6	薬物精神作用物質依存 てんかん	①依存物質・薬物の種類や特性を理解する。 ②精神依存・身体依存・耐性と依存物質の関係を学ぶ。 ③てんかんの発生機序、分類、症状などの特性を学ぶ。					
7	統合失調症及びその関連疾患	①統合失調症の発生機序、病態、病型を理解する。 ②症状・障害を理解する。 ③治療の方針、経過、予後、生活への影響について学ぶ。					
8	統合失調症及びその関連疾患	①統合失調症の病期、回復過程に応じた治療・リハビリテーションを学ぶ。 ②特徴的の症状の治療、経過を学ぶ。 ③生活支援、社会的予後を学ぶ。					
9	気分障害	①気分障害の概念、捉え方を理解する。 ②症状、障害、治療方針、回復過程、経過、予後を学ぶ。					
10	気分障害	①躁うつ病の発生機序、病態、病型を理解する。 ②症状、障害、治療方針、回復過程、経過、予後を学ぶ。 ③気分障害の生活への影響を学ぶ。					
11	神経症性障害	①神経症性障害の概念、捉え方を学ぶ。 ②不安、恐怖、強迫症とは何かを学ぶ。 ③ストレス関連障害について学ぶ。					
12	神経症性障害	①摂食障害、身体表現性障害、心身症について学ぶ。 ②人格障害の概念、捉え方を理解する。 ③人格障害の特性を理解する。					
13	精神発達遅滞 心理的発達障害	①精神遅滞、ダウン症について理解する。 ②広汎性発達障害の特性を理解する。 ③行動障害について理解する。					
14	精神障害の治療とリハビリテーション	①精神障害への医学的・治療的捉え方、リハビリテーションを理解する。 ②生活支援、社会資源、法的背景などを学ぶ。 ③精神医学を総合的に理解する。					
15	まとめ	学習の習熟度に合わせ補足					
教科書	書籍名			著者		出版社	
	PT・OTビジュアルテキスト 精神医学			先崎 章 監修		羊土社	
参考 図書等	標準理学療法学・作業療法学 精神医学			上野 武治 編		医学書院	
	学生のための精神医学			太田 保之		医歯薬出版	
授業 方法	教科書、スライド、DVDを用い講義 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
履修上の 注意	各精神障害について、原因、発生機序、症状、検査、診断、治療、経過、予後、疾患特性などが結びつき、疾患単位で障害を理解できるような学習が必要。そのため予習復習など主体的に学習を行うことが大切である。						

Ⅲ. 理学療法学科専門分野

講義科目	基礎理学療法学Ⅱ					授業時間数	30
担当講師	坪田 和英				授業時間数	30	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	急性期病院・通所介護・訪問看護において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1	
教育目標	理学療法的基础を築くために予防医学と現代医療を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。あわせて、提出期限の厳守、積極性、協調性等の職業適性を身につける。						
No	講義計画		行動目標(学習目標)				
1	オリエンテーション 理学療法の対象と関連科目		授業の進め方、グループワークの約束について説明する。 理学療法の対象とその関連科目について理解する。				
2	感染症とその対策 ①		感染症の概要と標準的予防策 (standard precaution)について理解する。				
3	感染症とその対策 ②		【演習】 手洗い、うがいを実践的に学ぶ。				
4	加齢変化と廃用症候群		加齢に伴う身体変化と廃用症候群について理解する。				
5	障がい者体験 ①		【演習】 障がい者にとって障壁となる動作、機能、環境を想定し、それらの対策案を話し合う。				
6	障がい者体験 ②		【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。 (障がい者の歩行・入浴動作・階段昇降動作・起き上がり動作など)				
7	障がい者体験 ③		【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。 (障がい者の歩行・入浴動作・階段昇降動作・起き上がり動作など)				
8	障がい者体験 ④		障がい者体験についてグループ発表を行う。				
9	障がい者体験 ⑤		障がい者体験についてグループ発表を行う。(レポート: 1回目)				
10	車椅子体験①		車椅子の名称や種類について理解する。 車椅子利用者にとって、障壁となる道路や施設の特徴についての対策案を話し合う。				
11	車椅子体験②		【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。車椅子体験				
12	車椅子体験③		【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。車椅子体験				
13	車椅子体験④		車椅子体験についてグループ発表を行う。(レポート: 2回目)				
14	チーム医療と包括的リハビリテーション ①		チーム医療に必要な資質面、認知面、精神運動面を考察し、検討する。				
15	チーム医療と包括的リハビリテーション ②		チーム医療と包括的リハビリテーションについて調査し、具体例を検討する。				
教科書	書籍名		著者		出版社		
参考図書等	老年学 第5版 標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野		奈良 勲		医学書院		
授業方法	講義、グループワーク、演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	レポート提出状況 (10%×2) 定期試験 (80%)にて評価する。			
履修上の注意	グループでの活動が多いため、協調性を意識して積極的に行動すること。						

講義科目	臨床運動学演習 I					
担当講師	伊織 信一 川崎 亮佑				授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	理学療法を科学的に実施するために、正常の身体運動の分析と方法を理解する。測定機器を用いて、客観的データに基づいた身体運動における関節・筋活動の理解および運動に対する生理的反応を確認し理解を深める。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。					
No	講義計画			行動目標(学習目標)		
1	臨床運動学概論			①臨床運動学の意義・目的・範囲を理解する。 ②動作分析は運動学と運動力学からなることを理解する。		
2	動作分析の基礎知識①			①運動力学の基本を説明できる(重力・重心・ベクトル)		
3	動作分析の基礎知識②			①運動力学の基本を説明できる(物理学の法則、モーメント)		
4	姿勢分析①			①動作分析の手順が説明できる。 ②正常な姿勢を理解する。分析の方法を計画する。		
5	姿勢分析②			①観察した内容に対するの考察を記載する。 ②姿勢分析について説明する。(発表)		
6	立ち上がり動作分析①			①高い椅子と低い椅子で比較する。 ②速い立ち上がりと遅い立ち上りを比較する。以上 2点を中心に立ち上りを分析する。		
7	立ち上がり動作分析②			①なぜ低い椅子で筋力を必要とするのか説明できる。 ②なぜ速い立ち上がりのほうが筋力を必要とするのか説明できる。		
8	寝返り・起き上がりの動作分析①			①寝返り・起き上がり動作を理解する。		
9	寝返り・起き上がりの動作分析②			①観察した内容に対するの考察を記載する。		
10	寝返り・起き上がりの動作分析③			①観察した内容に対するの考察を記載する。 ②観察した内容に対するの分析内容について説明する。(発表)		
11	歩行分析①			①歩行について理解する(相分け、関節の動き)		
12	歩行分析②			①歩行について理解する(床反力、筋活動) ②歩行分析方法を計画する。		
13	歩行分析③			①歩行観察した内容に対するの考察を記載する。		
14	歩行分析④			①歩行分析内容について説明する。(発表)		
15	姿勢・動作分析まとめ			①筋電図や三次元動作解析装置、床反力計などを用いて動作を考える。 ②歩行支援ロボットの臨床活用について理解する。		
教科書	書籍名		著者		出版社	
	動作分析臨床活用講座		石井慎一郎		メジカルビュー社	
	観察による歩行分析		月城慶一,他(訳)		医学書院	
参考図書等						
授業方法	講義と実技 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	臨床において必要な知識・技術であるため、しっかりと復習して下さい。					

講義科目		基礎評価学演習Ⅱ				授業時間数	60
担当講師		田熊 希			単位数	2	
開講年次	夜間コース	理学療法学科	2年前期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標		評価学演習Ⅰにて学習した内容を踏まえ、理学療法において必要な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。					
No	講義計画	行動目標(学習目標)		No	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	総論 筋力検査の概論	評価学演習Ⅰからの流れ(評価の位置づけなど)の再確認 ①筋力概念 ②各種筋力検査について ③粗大筋力とは		16	徒手筋力検査法 上肢③	肩関節の徒手筋力検査法演習③	
2	徒手筋力検査法 概論	①徒手筋力検査法とは ②段階付けと検査の流れについて		17	徒手筋力検査法 上肢④	肘関節、前腕、手関節の徒手筋力検査法演習①	
3	徒手筋力検査法 下肢①	股関節の徒手筋力検査法演習①		18	徒手筋力検査法 上肢⑤	肘関節、前腕、手関節の徒手筋力検査法演習②	
4	徒手筋力検査法 下肢②	股関節の徒手筋力検査法演習②		19	徒手筋力検査法 上肢⑥	肘関節、前腕、手関節の徒手筋力検査法演習③	
5	徒手筋力検査法 下肢③	股関節の徒手筋力検査法演習③		20	徒手筋力検査法 肩甲帯①	肩甲帯の徒手筋力検査法演習①	
6	徒手筋力検査法 下肢④	膝関節の徒手筋力検査法演習		21	徒手筋力検査法 肩甲帯②	肩甲帯の徒手筋力検査法演習②	
7	徒手筋力検査法 下肢⑤	足関節・足部の徒手筋力検査法演習①		22	徒手筋力検査法 その他①	手指の徒手筋力検査法演習	
8	徒手筋力検査法 下肢⑥	足関節・足部の徒手筋力検査法演習②		23	徒手筋力検査法 その他②	脳神経の徒手筋力検査法演習	
9	徒手筋力検査法 頭頸部・体幹①	体幹の徒手筋力検査法演習①		24	徒手筋力検査法 上肢・肩甲帯・ 手指・脳神経	徒手筋力検査法演習 まとめ 疾患をイメージした検査の実施 上肢・肩甲帯・手指	
10	徒手筋力検査法 頭頸部・体幹②	体幹の徒手筋力検査法演習②		25	知覚検査①	知覚概念 知覚検査(表在感覚検査)の方法	
11	徒手筋力検査法 頭頸部・体幹③	頭頸部の徒手筋力検査法演習①		26	知覚検査②	知覚検査(表在感覚検査)の方法と演習	
12	徒手筋力検査法 頭頸部・体幹④	頭頸部の徒手筋力検査法演習②		27	知覚検査③	知覚検査(表在感覚検査)演習	
13	徒手筋力検査法 下肢・頭頸部・ 体幹	徒手筋力検査法演習 まとめ 疾患をイメージした検査の実施 下肢・頭頸部・体幹		28	知覚検査④	知覚検査(深部感覚検査)の方法と演習	
14	徒手筋力検査法 上肢①	肩関節の徒手筋力検査法演習①		29	疼痛検査①	①疼痛検査の方法と演習 ②情報収集と医療面接の方法	
15	徒手筋力検査法 上肢②	肩関節の徒手筋力検査法演習②		30	まとめ	まとめ	
教科書	書籍名			著者		出版社	
	新・徒手筋力検査法			Helen J.Hislop		協同医書	
理学療法評価学			松澤 正、江口 勝正		金原出版		
参考 図書等	運動のための機能解剖学的触診技術上肢・下肢			林典雄		メディカルビュー	
	ベッドサイドの神経の診かた			田崎義昭		南山堂	
	四肢と脊柱の診かた			S.Hoppenfeld(著)、野島元雄(訳)		医歯薬出版	
基礎運動学 第6版 改訂			中村隆一		医歯薬出版		
授業 方法	演習および講義 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
履修上の 注意	実技演習が主体となります。積極的に行動し、習得に努めて下さい。						

講義科目		基礎評価学演習Ⅲ					
担当講師		伊織 信一			授業時間数	60	
開講年次	夜間コース	理学療法学科	2年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標		基礎評価学演習Ⅰ、基礎評価学演習Ⅱにて学習した内容を踏まえ、理学療法が対象となる各疾患に特異的な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。					
No	講義計画	行動目標(学習目標)		No	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	中枢神経系疾患の評価総論	中枢神経系疾患の評価の意義・目的 中枢神経系疾患のリスク管理 中枢神経系疾患の画像評価		16	股関節疾患の評価 ①	股関節疾患の評価について 股関節の整形外科テスト	
2	意識・認知機能の評価	意識レベルとは、JCS・GCSの検査法 認知とは、HDS-R、MMSEの検査		17	股関節疾患の評価 ②	股関節疾患の評価について 股関節の整形外科テスト	
3	脳神経検査 ①	脳神経の役割		18	膝関節疾患の評価 ①	膝関節疾患の評価について 膝関節の整形外科テスト	
4	脳神経検査 ②	脳神経検査の意義・方法・実技		19	膝関節疾患の評価 ②	膝関節疾患の評価について 膝関節の整形外科テスト	
5	脳神経検査 ③	脳神経検査の意義・方法・実技		20	足関節疾患の評価	足関節疾患の評価について 足関節の整形外科テスト	
6	筋緊張検査 ①	筋緊張とは 評価の意義 Modified Ashworth Scale 深部腱反射との関連性		21	脊椎疾患の評価①	脊椎疾患の評価について 脊椎疾患の整形外科テスト	
7	筋緊張検査 ②	筋緊張検査の方法と記載法		22	脊椎疾患の評価②	脊椎疾患の評価について 脊椎疾患の整形外科テスト	
8	協調性検査 ①	協調性検査の種類、実技		23	上肢疾患の評価 ①	上肢疾患の評価について 上肢の整形外科テスト	
9	協調性検査 ②	協調性検査の種類、実技		24	上肢疾患の評価 ②	上肢の整形外科テスト	
10	片麻痺機能検査 ①	Brunnstrom stage test(概要)		25	その他の評価	まとめ、復習	
11	片麻痺機能検査 ②	Brunnstrom stage test (実技)		26	姿勢制御とバランス反応	姿勢の制御について バランス反応とは	
12	片麻痺機能検査 ③	Brunnstrom stage test (実技)		27	バランス評価 ①	バランス評価とは ①外乱に対する反射・反応 ②リーチ動作時の反射・反応	
13	片麻痺機能検査 ④	12段階式片麻痺機能テスト SIAS(Stroke Impairment Assessment Set)		28	バランス評価 ②	FRT(Functional Reach Test)およびTUG (Timed Up to Go)の原理と方法、臨床的意義	
14	片麻痺機能検査 ⑤	SIAS(Stroke Impairment Assessment Set) 脳卒中に関する評価		29	バランス評価 ③	BBS(Berg Balance Scale)の原理と方法、臨床的意義	
15	骨関節系疾患の評価総論	評価の意義・目的 リスク管理 骨関節系疾患の画像評価		30	歩行評価	歩行評価とは 10m歩行	
教科書	書籍名			著者			
	理学療法評価学			松澤正・他			
	脳卒中中の機能評価 SIASとFIM(基礎編)			千野 直一			
参考図書等	ベッドサイドの神経の診かた			田崎義昭			
授業方法	演習および講義 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	演習中心の科目です。知識だけでなく、身体を動かして色々な人とペアを組んで練習をして技術を獲得しましょう。 また、習熟度を確認しながら授業を進めていきます。						

講義科目	臨床評価学演習Ⅱ					
担当講師	川崎 亮佑				授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	① 対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ② 対象者の状況に合わせた検査の方法を考えたうえで、練習に取り組むことができる ③ 検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える ④ 基礎評価学演習で学修した検査測定について、健常者に施行できるレベルの技術を習得する					
No	講義計画			行動目標(学習目標)		
1	検査:関節可動域測定 (実技練習)			実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる:関節可動域測定(下肢の各関節の測定、検査器具の取り扱いと記録の実際)		
2	検査:関節可動域測定 (実技テスト)			対象者に関節可動域測定(下肢)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
3	検査:関節可動域測定 (実技テスト)			対象者に関節可動域測定(下肢)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
4	検査:関節可動域測定 (実技テスト)			対象者に関節可動域測定(下肢)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
5	検査:関節可動域測定 (実技練習)			実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる:関節可動域測定(手指・肩甲骨の各関節の測定、検査器具の取り扱いと記録の実際)		
6	検査:関節可動域測定 (実技テスト)			対象者に関節可動域測定(手指・肩甲骨)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
7	検査:関節可動域測定 (実技テスト)			対象者に関節可動域測定(手指・肩甲骨)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
8	検査:MMT (実技練習)			実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる:徒手筋力検査法(下肢・頸部・体幹の測定、記録の実際)		
9	検査:MMT (実技テスト)			対象者に徒手筋力検査法(下肢・頸部・体幹)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
10	検査:MMT (実技テスト)			対象者に徒手筋力検査法(下肢・頸部・体幹)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
11	検査:MMT (実技練習)			実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる:徒手筋力検査法(上肢・手指の測定、記録の実際)		
12	検査:MMT (実技テスト)			対象者に徒手筋力検査法(上肢・手指)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
13	検査:MMT (実技テスト)			対象者に徒手筋力検査法(上肢・手指)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
14	検査:MMT (実技テスト)			対象者に徒手筋力検査法(上肢・手指)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
15	まとめ			それぞれの検査におけるチェックポイントを理解し、自己の課題を明らかにすることができる 継続的に実技練習への取り組みを行うよう意識することができる		
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法評価学		著者 松澤正・江口勝彦		金原出版	
	新・徒手筋力検査法		Helen J.Hislop		協同医書出版社	
参考図書等	臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版		監修 才藤栄一		金原出版株式会社	
	PTOTのための評価測定3 MMT 第2版		監修 伊藤俊一		三輪書店	
	PTOTのための評価測定4 MMT 第2版		監修 伊藤俊一		三輪書店	
授業方法	演習・グループワーク 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	実技試験(70%)、提出課題(15%)、受講態度(15%)を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	安全に配慮し、対象者に最小限の負担となるよう検査・測定を行うための手順と必要な基礎知識を実技を交えて学ぶ。授業時間内で検査技術の修得と実技テストの合格を目標とする。					

講義科目		運動療法学演習					
担当講師		岡部 貴文 伊織 信一			授業時間数	60	
開講年次		夜間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標		運動療法における運動療法学の歴史および位置づけを認識し、基本的運動療法について、方法、適応、禁忌およびリスク管理を理解し、安全で効果的に実施できることを目標とする。					
No	講義計画	行動目標(学習目標)		No	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	運動療法総論①	①運動療法の定義、歴史を理解する。②運動療法の目的、効果、リスク管理を理解する。		16	体力の改善演習②	①全身持久力改善の方法を理解する。	
2	運動療法総論②	①運動療法の必要性を理解する。②運動療法を検討するプロセスを理解する。		17	体力の改善演習③	①運動負荷試験を体験する。②運動処方(頻度・強度・種類・時間)を理解し、体験する。	
3	関節可動域の改善①	①関節の形態と機能、関節可動域制限因子を理解する。②関節可動域運動の目的と種類を理解する。		18	体力の改善演習④	①運動負荷試験を体験する。②運動処方(頻度・強度・種類・時間)を理解できる。	
4	関節可動域運動演習②(上肢)	①肩甲骨・肩・肘・手指の関節可動域運動の方法を理解する。②それら関節可動域運動を実施できる。		19	協調性改善	①協調性障害を理解する。②協調性障害の運動療法を理解できる。	
5	関節可動域運動演習③(体幹)	①頸部・胸部・胸腰部の関節可動域運動の方法を理解する。②それら関節可動域運動を実施できる。		20	バランスの改善	①バランス障害を理解する。②バランス障害の運動療法を理解できる。	
6	関節可動域運動演習④(下肢)	①股・膝・足の関節可動域運動の方法を理解する。②それら関節可動域運動を実施できる。		21	基本動作の獲得・改善①	①基本動作を理解する。②基本動作の観察・視点を理解する。	
7	ストレッチ理論①	①ストレッチの原理、効果、種類を理解する。		22	基本動作の獲得・改善②	①基本動作に対する運動療法の方法を理解する。	
8	ストレッチ演習②(上肢)	①肩甲骨・肩・肘・手指のスタティックストレッチを実施できる。②それらのセルフストレッチングを実施できる。		23	歩行動作の獲得・改善①	①歩行動作を理解する。②歩行動作の観察・視点を理解する。	
9	ストレッチ演習③(体幹)	①頸部・胸部・胸腰部のスタティックストレッチを実施できる。②それらのセルフストレッチングを実施できる。		24	歩行動作の獲得・改善②	①歩行動作に対する運動療法の方法を理解する。	
10	ストレッチ演習④(下肢)	①股・膝・足のスタティックストレッチを実施できる。②それらのセルフストレッチングを実施できる。		25	中枢神経系障害の運動療法	①中枢神経系障害の障害を理解する。②中枢神経系障害の運動療法の概要を知る。	
11	筋力の改善理論①	①運動単位と筋線維型を理解する。②筋の肥大と萎縮を理解する。③筋力の低下、疲労を理解する。		26	骨関節系障害の運動療法	①骨関節系障害の障害を理解する。②骨関節系障害の運動療法の概要を知る。	
12	筋力の改善理論②	①筋持久力について理解する。②過負荷・特異性の原理を理解する。③筋力トレーニングの特異性を理解する。		27	内部系障害の運動療法	①内部系障害の障害を理解する。②内部系障害の運動療法の概要を知る。	
13	筋力の改善演習演習③(上肢)	①上肢の筋力改善プログラムを立案できる。②それら漸増抵抗運動を実施できる。		28	高齢者と理学療法および廃用症候群に対する運動療法	①高齢者の特徴を理解する。②廃用性症候群の症状を理解する。③上記に対する運動療法の概要を知る。	
14	筋力の改善演習演習④(下肢)	①下肢の筋力改善プログラムを立案できる。②それら漸増抵抗運動を実施できる。		29	運動学習	①運動学習の影響因子を理解する。	
15	体力の改善理論①	①体力の定義を理解する。②全身持久力について理解する。③無酸素性作業域値について理解する。		30	臨床的応用	①運動学習の臨床的応用を理解する。	
教科書	書籍名			著者		出版社	
	運動療法学			柳澤 健(編集)		金原出版	
参考図書等	指定しない。						
授業方法	講義と演習【実技】 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	理学療法(士)の基礎となる重要な科目です。予習・復習を欠かさず、講義・演習(実技)に真剣に臨みましょう。						

講義科目	物理療法学					
担当講師	岡部 貴文				授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	種々の物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌および実施の手順について理解する。 症状に応じた物理療法を選択できる。					
No	講義計画		行動目標(学習目標)			
1	物理療法総論・炎症		理学療法における物理療法の位置づけとその定義を理解する。 炎症および組織修復の定義、機序について理解する。 炎症および組織修復に対する物理療法の考え方を理解する。			
2	痛み・温熱療法概論		痛みの定義、機序について理解する。 痛みに対する物理療法の考え方を理解する。 温熱療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。			
3	温熱療法各論①		ホットパック、パラフィンの特徴、生理的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
4	温熱療法各論②		極超短波の特徴、生理的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
5	温熱療法各論③		超音波の特徴、生理的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
6	温熱療法各論④		超音波の特徴、生理的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
7	温熱療法演習		ホットパック、パラフィン、極超短波、超音波を実施できる。			
8	寒冷療法概論・各論		寒冷療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。 アイスパック、クリッカーの特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
9	光線療法概論・各論		光線療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。 赤外線・レーザーの特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
10	水治療法概論・各論		水治療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。 渦流浴、プール浴、交代浴の特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
11	寒冷・光線・水治療法演習		アイスパック、クリッカーを実施できる。 赤外線療法を実施できる。 渦流浴を実施できる。プール浴を理解する。			
12	電気療法概論・各論①		電気刺激療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。 電気刺激によるバイオフィードバック療法を理解する。			
13	電気療法各論②		治療的電気刺激療法(TES)、神経・筋電気刺激療法(NMES)、経皮的末梢神経電気刺激療法(TENS)、干渉波電気刺激療法(IFCS)、機能的電気刺激療法(FES)の特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
14	牽引療法概論・各論		牽引療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。 頸椎牽引、腰椎牽引の特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
15	電気刺激・牽引療法演習・まとめ		TES、NMES、TENS、IFCS、FES電気刺激療法を実施できる。 頸椎牽引、腰椎牽引を実施できる。 各々の物理療法の要点を理解する。			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法テキスト IX 物理療法		監修 千住秀明		神陵文庫	
参考図書等	理学療法士のための物理療法臨床判断ガイドブック		木村 貞治		文光堂	
	ゴールドマスターテキスト3 物理療法学		柳澤 健		MEDICAL VIEW	
授業方法	講義と演習形式にて実施 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	物理療法機器の取り扱いには実習着の着用必須					

講義科目	日常生活活動学演習 I					授業時間数	30
担当講師	原田 薫				授業時間数	30	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	総合病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1	
教育目標	<p>日常生活の基本として遂行される動作を取り上げ、それらの動作遂行に必要な条件を解説するとともに、ADL障害に対して動作の支援、援助方法を理解し実践する。</p> <p>self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。</p> <p>障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。</p>						
No	講義計画			行動目標(学習目標)			
1	ADLの概念と範囲			ADLの概念や範囲を理解する。ADLとQOLの関係を理解する。			
2	日常生活活動の運動学①			静的基本動作の定義・分類を理解し実際の動作と結びつける。			
3	日常生活活動の運動学②			動的基本動作の定義・分類を理解し実際の動作と結びつける。			
4	起居・移乗動作について①			重心や支持基底面の関係が動作に与える影響を理解し、動作支援におけるポイントを理解する。			
5	起居・移乗動作について②			寝返りを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。寝返り動作を支援するポイントを理解する。			
6	起居・移乗動作について③			起き上がりを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。起き上がり動作を支援するポイントを理解する。			
7	起居・移乗動作について④			立ち上がりを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。立ち上がり動作を支援するポイントを理解する。			
8	起居・移乗動作について⑤			移乗を構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。移乗動作を支援するポイントを理解する。			
9	self careについて①			食事・整容動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。			
10	self careについて②			排泄動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。			
11	self careについて③			更衣、入浴動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。			
12	移動補助具について(杖)①			杖の構造・特徴・種類を理解し、実際に杖の処方ができる。			
13	移動補助具について(杖)②			演習を通して杖歩行パターン・応用杖動作など障害に応じた指導ができる。			
14	移動補助具について(松葉杖)③			松葉杖の構造・特徴・種類を理解し、実際に松葉杖の処方ができる。 演習を通して松葉杖歩行パターン・応用松葉杖動作など障害に応じた指導ができる。			
15	移動補助具について(歩行器)④			歩行器の構造・特徴・種類を理解し、実際に歩行器・歩行車の処方を行い障害に応じた指導ができる。			
教科書	書籍名			著者		出版社	
	理学療法学テキストV 日常生活活動(ADL)			千住 秀明		神陵文庫	
参考図書等	新版 日常生活活動(ADL)―評価と支援の実際―			伊藤利之・江藤文夫		医歯薬出版	
	動作分析臨床活用講座バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践			石井慎一郎		MEDICAL VIEW	
授業方法	講義および演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験			
履修上の注意	演習が中心の講義です。自身の身体を使い理解を深めて下さい。						

講義科目	日常生活活動学演習Ⅱ					
担当講師	伊織 信一				授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。 self care の概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。 ADL評価の意義および検査方法を理解する					
No	講義計画		行動目標(学習目標)			
1	移動補助具について(車椅子)①		車椅子の構造・特徴・種類を理解し、実際に車椅子の処方を行い障害に応じた指導ができる。体圧分散の機器を必要に応じて使用することができる。			
2	移動補助具について(車椅子)②		演習を通して車椅子の処方を行い障害に応じた指導ができる。			
3	移動補助具について(車椅子)③		演習を通して障害に応じた車椅子介助ができる			
4	日常生活活動の評価①		ADL評価の目的を理解する。できるADLとしているADLについて理解する。実用性とは何かを説明できる。代表的なADL評価の数量化方式のADL評価と実行可能なADL評価の特徴を説明できる。			
5	日常生活活動の評価②		代表的なADL評価の動作を細分化し、手順ごとに評価する方式と一定条件下でのADL動作能力、その他、IADL評価の特徴を説明できる。			
6	日常生活活動の評価③		QOLの各種評価法、ICFの分類と評価点の特徴を説明できる。			
7	日常生活活動の評価④		Barthel indexの概要・使用方法を理解し、採点を体験する。			
8	日常生活活動の評価⑤		FIMの概要・使用方法を理解し、代表的な評定尺度を説明できる。 FIMの認知項目の評定尺度を理解し、採点を体験する。			
9	日常生活活動の評価⑥		FIMの運動項目の評定尺度を理解し、採点を体験する。			
10	日常生活活動の評価⑦		FIMの症例検討			
11	日常生活活動の評価⑧		移動動作のADL指導および評価上の注意点を代表的な疾患を通して理解する。			
12	日常生活活動の評価⑨		身の回り動作のADL指導および評価上の注意点を代表的な疾患を通して理解する。			
13	日常生活活動の評価⑩		コミュニケーション障害・社会的認知項目について評価上の注意点を代表的な疾患を通して理解する。			
14	福祉機器について		リフト・特殊寝台・自助具などの構造・特徴・種類を理解し、障害に応じた指導ができる。			
15	日常生活活動 総括		学習の習熟度の合わせて不足部分を補う。			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	日常生活活動(ADL)		千住 秀明		神陵文庫	
	脳卒中の機能評価SIASとFIM(基礎編)		千野直一		金原出版	
参考図書等	新イラストによる安全な動作介助のてびき第3版		飛松 好子		医歯薬出版	
授業方法	講義および演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	日常で行っている各動作が、どのような要素で成り立っているか、各自の日常生活を振り返りながら学習してください。					

講義科目		中枢神経疾患の理学療法学 I				授業時間数	60
担当講師		奥之山 峻				単位数	2
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2	
教育目標		脳血管障害、脳腫瘍の発生機序と障害像を把握した上で、片麻痺に対する理学療法を理解する。					
No	講義計画	行動目標(学習目標)		No	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	中枢神経系障害の理学療法総論	脳の可塑性と運動療法、基本的な機能予後・回復過程について理解する。		16	急性期の理学療法	急性期理学療法の実際について理解する。	
2	中枢神経系障害の基礎解剖①	中枢神経の構造と機能、大脳皮質の構造と機能について理解する。		17	回復期の理学療法	回復期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する	
3	中枢神経系障害の基礎解剖②	辺縁系・基底核の構造と機能について理解する。		18	回復期の理学療法	回復期理学療法の実際について理解する。	
4	中枢神経系障害の基礎解剖③	間脳・脳幹・小脳の構造と機能について理解する。		19	維持期・在宅期の理学療法	維持・在宅期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する	
5	中枢神経系障害の基礎解剖④	脳血管・脳脊髄液について理解する。		20	維持期・在宅期の理学療法	維持・在宅期理学療法の実際について理解する。	
6	中枢神経系障害の基礎解剖⑤	伝導路(上行路と下行路)の構造と機能について理解する。		21	中枢神経系障害の理学療法について	急性期・回復期・維持期の理学療法の違いについて理解する	
7	脳梗塞の病態	脳梗塞の概要、分類(機序・臨床病型・病変部位からの分類)について理解する。		22	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (臥位姿勢・寝返り動作・起き上がり動作・床上動作)	
8	脳出血の病態	脳出血の概要、各出血(被殻・視床・脳幹・小脳・皮質下出血)の病態について理解する。		23	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (座位姿勢・立ち上がり動作・立位姿勢)	
9	脳梗塞・脳出血の画像診断	脳梗塞・脳出血の画像診断について理解する。		24	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (車椅子シーティング・移乗動作)	
10	くも膜下出血の診断と治療	くも膜下出血の疫学、診断、検査、治療、3大合併症について理解する。		25	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (歩行・階段昇降・応用歩行)	
11	脳腫瘍の診断と治療	脳腫瘍の疫学、画像、診断、検査、治療について理解する。		26	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (更衣動作・整容動作・排泄動作・入浴動作)	
12	脳血管障害と脳腫瘍の病態まとめ	脳血管障害と脳腫瘍の病態についてまとめる。		27	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (食事動作・嚥下障害)	
13	中枢神経系障害の理学療法各論	脳卒中ガイドライン、ニューロリハビリテーション、ファシリテーションテクニックについて理解する。		28	その他の理学療法について	上肢機能障害、片麻痺の方に対する理学療法について理解する。	
14	中枢神経系障害の理学療法各論	中枢神経系障害の評価を理解する。		29	その他の理学療法について	痙縮に対する理学療法、体力低下に対する理学療法について理解する。	
15	急性期の理学療法	急性期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する。		30	ADL指導・その他の理学療法について	中枢神経系障害のADL指導および、その他の理学療法についてまとめる。	
教科書	書籍名			著者		出版社	発行年
	病気が見える7(脳・神経)			医療情報科学研究所		Medic Media	2017年
	ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション			潮見 泰蔵		羊土社	2017年
参考図書等	脳卒中理学療法の理論と技術			原寛美、吉尾雅春		MEDICAL VIEW	2013年
	PT・OTのための画像のみかた			山下 敏彦 監修		金原出版	2016年
授業方法	講義および演習 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	脳血管障害の発生機序と障害像を理解するために、神経系の解剖をしっかり復習すること。						

講義科目	小児疾患の理学療法学				
担当講師	原田 薫			授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	総合病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数
教育目標	小児期に発症する疾患について、疾患の知識及び派生する障害像を理解するとともに、それに対するリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する				
No	講義計画	行動目標(学習目標)			
1	正常運動発達	背臥位～腹臥位～座位～立位・微細運動の発達について理解する			
2	発達・運動発達の評価	発達検査、運動発達検査、日常生活および能力障害の検査について理解する			
3	正常姿勢反射の発達	中枢神経系の発達・姿勢反射について理解する			
4	脳性麻痺の概論	療育の理念・脳性麻痺の定義・原因・分類について理解する			
5	痙直型両麻痺の概要	痙直型両麻痺の臨床症状・異常運動発達 について理解する			
6	痙直型両麻痺の理学療法	痙直型両麻痺の評価・理学療法 について理解する			
7	痙直型四肢麻痺・片麻痺の概要と理学療法	痙直型四肢麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法 痙直型片麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法 について理解する			
8	アトローゼ型脳性麻痺の概要と理学療法	アトローゼ型脳性麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法について理解する			
9	脳性麻痺のまとめ	国家試験問題を解き、脳性麻痺に対する理解度を深める			
10	子どもの遺伝性疾患の概要	Duchenne型筋ジストロフィー・その他遺伝性疾患の疾患概要について理解する			
11	子どもの遺伝性疾患の理学療法	Duchenne型筋ジストロフィーの病期と理学療法について理解する			
12	子どもの整形外科疾患(二分脊椎・ペルテス病など)	二分脊椎・ペルテス病・発育性股関節形成不全について理解する			
13	ダウン症の病態と理学療法	ダウン症の運動発達と理学療法について理解する			
14	発達障害について	発達障害の特徴と支援について理解する			
15	その他の疾患・まとめ	その他の小児期に特有の疾患についての理学療法を理解する 国家試験について知識を深める			
教科書	書籍名		著者		出版社
	シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト		細田 多穂 監修		南江堂
参考図書等	写真で見る乳児の運動発達		Lois Bly (著), 木本 孝子, 中村 勇		協同医書出版
	PTマニュアル 小児の理学療法		河村 光俊(著)		医歯薬出版
	イラストでわかる 小児理学療法学		上杉 雅之		医歯薬出版
授業方法	講義中心、必要に応じて演習を取り入れる 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験	
履修上の注意	予習、復習に努めてください。 授業で触れない教科書の章に関しては、発展項目として自主的に学習して下さい。				